

NEXT CONCERTS
》 次回東京定期演奏会

第 **765** 回

サントリーホール

プレートク 松木 篤也氏

2024年 **11月1日(金)** 19:00開演 18:30~

2日(土) 14:00開演 13:20~

あのルルー、再び!
音楽の喜びを伝える特別なひととき

指揮・オーボエ: フランソワ・ルルー

ラフ:
シンフォニエッタ
メンデルスゾーン(タルクマン編曲):
「無言歌集」より
メンデルスゾーン:
交響曲第3番《スコットランド》

©Jean-Baptiste Millot

1回券料金 S ¥8,500 A ¥7,000 B ¥6,000 C 完売 P ¥4,500 Ys (25歳以下) ¥2,000

※障害者手帳をお持ちの方は割引がございませぬので、サービスセンターにお問い合わせください。

次回東京定期演奏会指揮者にインタビュー!

フランソワ・ルルー 編

きき手 松本 良一

—前回2022年に初めて日本フィルを指揮した時の印象はいかがでしたか。

オーケストラのことがすぐに大好きになりました。とても良いコンディションで私をすぐに受け入れてくれ、しかも音に「規律」がある。まるでお祭りのように心躍る体験でした。舞台上と客席の間で音楽のエネルギーのやり取りもできましたし、大成功だったと思います。

—2度目の客演となる今回について、プログラムの狙いなどを聞かせてください。

まず、私自身がオーボエ奏者として演奏できる曲ということで、ラフの「シンフォニエッタ」を選びました。軽やかで技巧的で、メンデルスゾーンの作風にとても近い。日本のお客さんにもきっと受け入れられるでしょう。次のメンデルスゾーンの「無言歌集」の編曲は、とても知的、繊細な曲で、これまでもあちこちで吹き振りをしてきました。そして後半は交響曲第3番《スコットランド》。これら3曲を、時を旅する感覚で聴いてもらえ

れば、気持ちも盛り上がってくることでしょ。再び指揮する機会をもらえたことはとてもうれしい。前回の良い感触をしっかり定着させ、オーケストラとの関係をさらに深めていきたいと思ひます。

—「スコットランド」の魅力は。

第1楽章はミステリアスな前奏から始まり、徐々に彩り豊かに音楽が盛り上がる。第2楽章はエネルギーが炸裂し、華麗なテクニックを披露する場。正確なリズムと速いテンポが求められます。そして終楽章では、スケールの大きな曲想が一つにまとまり、聴き手を一緒に歌いたくなるような気分にさせる。これこそメンデルスゾーンの真骨頂でしょう。

—ところで、いつ頃から指揮を始めたのですか。

オーボエ奏者として初来日した1991年頃から、すでに指揮に興味があったのです。90年代後半にドイツで室内オーケストラの指揮を経験し、ロリン・マゼールとダニエル・バレンボイムに師事しました。その後、結婚した妻(ヴァイオリニストのリサ・パティアシュヴィリ)の勧めもあり、今ではオーボエより指揮の方に興味を向いています。

—マゼールやバレンボイムからはどんなアドバイスをもらいましたか。

マゼールからは、演奏に臨む際の正確さと規律がオーケストラの可能性を最大限に引き出すことを教わりました。バレンボイムからは、音楽の方向性のある種の「重さ」としてスコアから読み取ることを学びました。またオーボエ奏者としてデイヴィスやジュリーニ、アーノクール、ブーレーズなど第一級の指揮者と共演できたことは、本当に貴重な体験でした。

—すでに幅広いレパートリーをお持ちです。新しい作品の勉強にはコツがあるのですか。

私の場合、最初に2週間ほど集中してスコアを読んだ後、次の2週間は他のことをします。そしてまた勉強に戻る……。これを繰り返します。すると2週間の中断の間に音楽が自然に体の中に染みこんでくるのです。ワインの熟成に似ています。音楽はより香り高く、濃厚な味わいになります。

—25年からはカンマーアカデミー・ポツダムの芸術監督に就任されますね。

大きな意気込みをもって取り組みます。最初のシーズンはハイドンの交響曲を軸に、現代の新作やジャズ風の作品を取り上げ、歌手のローランド・ピリヤソンや妻との共演も。ほかにもベルリオーズやサン＝サーンス、モーツァルトなどを予定しています。

—ピリオド楽器・奏法に関心はありますか。

もちろん。バロックの作品は大変興味をもって勉強しています。あの豊かな音色は昔の楽器ならではの。そうした美点を探究しつつ、モダン楽器も併用することでレパートリーはさらに広がります。

—来年3月にはレ・ヴァン・フランセの一員として来日されますね。

はい。アンサンブルとして初めて来日したのは2002年ですから、来年で23年になります。すばらしい響きのホールと巡りあえて、私は大の日本びいきになりました!

助成: 文化庁文化芸術振興費補助金
(舞台芸術等総合支援事業(公演創造活動))
独立行政法人日本芸術文化振興会

文化庁
Agency for Cultural Affairs,
Government of Japan